

平成30年関西青雲同窓会懇親会出席報告

昭和62年卒(37期) 吉川陽行

それは、平成30年4月、役員会に出席したことから始まった。大瀧姐さんから「同期でだれか、6月16日の関西青雲同窓会総会、懇親会へ出席するように。」と命じられたのだ。6月の予定などはっきりしていないので、「困ったなあ」と思ったが、幸い隣の伊藤大輔が自分から立候補した。自分では行かなくてもいいだろう、と思ったが、「一緒に行こう。」と声がかかってしまった……。関西青雲同窓会の総会へ行くには前日の15日金曜日に京都へ入らなければならない。多分、用事が入っているだろうな、と思って手帳をみると真っ白だったので、「一人で楽しんでこい」と突き放すわけにも行かず、「考えておくよ」と言ってその場はそれで終わった。

京都は33年ぶり(修学旅行以来)だし、幸いなことに6月15日から6月18日かけて何かやらなければならないようなこともなかったのが、結局、二人で京都へ行くことにした。中年男二人が京都へ行くというのは、全く絵にならないのはわかっているのだが……。

この京都旅行、大瀧姐さんから与えられた貴重な旅費の中でやりくりすることになるのだが、最初は格安航空会社やカプセルホテルを考えたが、さすがにいい年をしたオヤジ二人がカプセルホテルというかどうか、ということで、2泊3日、飛行機代宿泊費込み一人34,500円という格安のANAのツアーを申し込んだ。旅行1か月前だとLCCでもそう安くはならないので、お得である。

が、数日後、大輔から「そのホテル〇〇には、幽霊が出る!」というのだ。いや、そんなことをいったら京都なんて至る所に変死体のごろごろしていた街だし、三条河原は処刑場だったわけだし、何かあれば鴨川には仏さんがプカプカ浮いたらしいし……。でも、札幌へ戻ってきておかしくなられてもこまるしなあ、と思って急遽予約を変更した。高くなってしまったが、2泊3日で宿泊代、飛行機代込みであることを考えるとそれでも安い。

そして気がつけばあっという間に6月15日。

当日は、午前11時、空港へ。

ちょうど昼食時間なので飲食店街を探していると「きくよ食堂」があった。「きくよ食堂」は函館朝市の有名店だが、いつもなら「わざわざ札幌まで来て、きくよ食堂はないよな。」とパスするところだが、函館つながりということもあり、昼食は「きくよ食堂」へ。もちろん昼間だが麦のジュースがついていることは多言を要しない。

食事を終えて、機上の人となり、あっという間に神戸空港へ到着。今回、京都へ行くため、伊丹、関西空港、神戸と3つの空港のうち、往路は時間の関係で神戸空港しか選べなかった。神戸空港から京都までの移動時間が一番長い。しかし、空港の到着ロビーを出てすぐに改札があり徒歩での移動時間が少ないので意外と楽だった。

空港から2時間ほどで京都へ。車外へ出ると意外と涼しい。

京都駅からタクシーで河原町三条下ルのホテルへ向かう途中、五条大橋を通った。五条大橋といえは、後の源義経となる牛若丸と武蔵坊弁慶が最初に出会った場所だ、というのは歴史の話。函館で育

ったオヤジは♪「京の五条の橋の上～」と聞けば「餅」を連想してしまうのだ。松風町「弁慶力餅 三晃堂」の街頭放送で流れる童謡「牛若丸」が懐かしい。

ホテルの場所は、「中京区河原町三条下ル??」。住所を聞いただけで何となく場所がわかってしまうような錯覚に陥るのは、札幌に住み慣れた者の修正だろうか、それとも方向音痴の自分だけだろうか・・・。

京都は北から一条、二条、三条、^し四条・・・、街のど真ん中を南北に通るのが烏丸通、その東側に鴨川があり・・・鴨川のすぐ西側が先斗町通^{ほんとうちよう}、高瀬川・・・。今回の宿は烏丸通と鴨川の中の鴨川寄り、南北を通る河原町通に面したところにあり、先斗町通まで徒歩5分、まっすぐ東へ行くと八坂神社、祇園が徒歩圏内。遊びに行くには最適な場所だ。

ホテルについて、その後は、○□☆△※◇φ*◎だったことは多言を要しないであろう。聞くだけ野暮というものだ。

翌日、朝食は各自で済ませることになっていた。ホテルから徒歩10分程度のところに「イノダコーヒ本店」があり、朝7時からやっているのそこで朝食をとることにした。ホテルの出口を左に曲がり、さらに最初の信号を左に行って少し歩くとどこかで見たアーケード街があらわれた。修学旅行のときに歩いた新京極商店街だ。アーケード街を通り過ぎしばし歩くと目当ての「イノダコーヒ」だ。ほぼ午前7時の開店と同時に入ったが、多くの先客がいた。どこでも座ってよいとのことだったが、席は限られていた。観光客ばかりかと思っていたが、どうやら地元の人も多い。予めホームページで調べておいたので値段自体には驚かないが、「京の朝食」1,440円を迷わず注文する。札幌のイノダコーヒに行ったことがある方はご存じだろうが、コーヒーに砂糖とミルクを入れるかどうかを尋ねられ、どちらも入った状態で出てくるのはイノダコーヒくらいだろう。

待つこと約10分足らずで料理が運ばれてきた。クロワッサン、ハム、ソーセージ、スクランブルエッグにサラダが添えられ、背の高いカップにコーヒーが入っている。クロワッサンとハム、ソーセージは自家製ということだ。いずれも不味いはずはない。クロワッサンは自分で好んで注文しないが（ボロボロとくずが落ちるので食べづらいのだ）、一口食べて「クロワッサンとはこんなに美味しいものだったのか!」と感動するくらいだった。

店に入ってから食事を済ませて約40分、ふと気がつくお客が増えてきた。一人で4人掛けテーブルを使うのも憚られるようになったので、席を立った。

ホールの出口を見ると、空席を待つ人が結構並んでいた。

ホテルへ帰る途中、うなぎ屋があった。何ともクラシカルな雰囲気漂う建物で早朝にもかかわらず、仕込みをしているのだろう。厨房から鰻を焼く匂いが漂ってきた。1枚ポスターが貼っていた。近くの寺のポスターで「清少納言千年己法要」とあった。「セイショウナゴン センネンキ ホウヨウ」である。高校のときに古文の教科書にのっていたあの「清少納言」の法事をやろうというのだ。まるで近所に住んでいたオバサンの法事のようなのである。

ホテルもどると、相棒の伊藤大輔がフロントでホテルのスタッフと何やら話しをしていた。訳をきいてみると朝飯の料金の払い戻しをしてもらっているとのことだ。なんでもビュッフェスタイルの朝食だが、ご飯が炊けていなくてどうしようもないから払い戻してもらうことにしたとか。値段を聞け

ば1, 500円くらいだったそうだが、それを考えると「イノダコーヒ」の「京の朝食」の安いことといたらない。

大輔が外で朝飯を食べるといので、近くのタリーズに2人で行って、コーヒー1杯つきあった。京都まで来てタリーズか??と思うかもしれないが、仕方がない。イノダコーヒのことを教えると、是非行きたいということで翌朝一緒に行くことになった。ちなみに、「イノダコーヒ」は間違いで「イノダコーヒ」である。

8時半くらいにはホテルへもどり、9時半にホテルを出発することにした。総会・懇親会は11時開始だが、少し時間があるので会場となった聖護院を見物することにした。

聖護院はホテルからタクシーで10分程度のところにある。

聖護院は、平安後期、白川上皇が熊野御幸の先達を務めた増誉に対して下賜された修験道の寺院で、江戸末期の「天明の大火」に際して時の光格天皇が聖護院に避難され、御所が再建されるまで滞在されたそう。現代風というならば「仮の皇居」だった場所というところで史跡指定も受けてる。建物の中には美術的な価値の高い襖絵などがあるとのことだが、残念ながら通常は一般公開していないそう。

次に向かったのは徒歩5分のところにある平安神宮である。

修学旅行のとき、太い朱塗りの柱の建物はなんとなく覚えているが、その他は記憶の彼方である。拝殿には日本語ばかりではなく中国語や韓国語、英語などが飛び交っていた。土産を購入しているとちょうどよい時間になったので、会場の聖護院御殿荘へ向かった。

すでに受け付けが始まっていて、札幌から来たことを伝えて土産を渡した。

会場に行き、席について少ししたところで、意外な方にお会いした。星滋子先生が函館から出席なさっていたのだ。しかも席は大輔の隣である。星先生は卒業してから全く変わっておられない。聞けば市立函館高校の放送局の指導をなされているとのことだ。

総会が始まり程なくして終了。宴会まで時間があるので、聖護院御殿荘のスタッフが中を案内してくれた。

その解説によれば、今上陛下が平成31年に譲位をなされるが、実はそれ以前に譲位なされた天皇は光格天皇が最後だという。

そのあと、懇親会となり、楽しい時間があっというまに過ぎてしまった。続いて2次会、3次会、4次会となって解散は午後10時過ぎ。肝心の懇親会の報告が薄い。写真でご容赦願いたい。酒が入ってしまったので……。あまりの楽しさに大輔と次年度もまた来ようと再訪を約した。残念なことは、6月16日の時点で、関西在住の同期が見つからなかったことだが、後に和歌山に転勤した同期がいることがわかった。来年、一緒に行こう、と誘ったところ快諾を得たので、来年は一緒に行くことになるはずだ。